

自立活動学習指導案

1 単元（題材）名

「文節で区切って読もう」

2 単元（題材）の目標

- ・教師が音読する文を聞きながら、その文を文節で区切ることができる。
- ・文節で区切った文を正しく読むことができる。

3 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①正しく読むために、文節で区切って読む方法が適していることを理解している。 ②文節で区切った文を正しく読んでいる。	①教師の音読を聞きながら、適切な箇所を選んで区切っている。	①自身に合った学習として、文節で区切る方法で音読に取り組もうとしている。

4 単元の指導計画と評価計画

【音読の学習】

時	目標	学習内容	評価規準（評価方法）
第1時	・教師が音読する文を聞きながら、その文を文節で区切ることができる。	・教師の音読を聞きながら、その文に文節で区切る。	イ①（行動観察）適切な箇所を選んで区切っているか。
第2時	・文節で区切って読む方法が自身に適していることを知ることができる。	・区切りを入れる前と入れた後の音読を比較する。	ア①（児童の発言）区切る前と後でタイムを計ったり、動画を見たりして、どちらが正確に読めているかを児童が選択できているか。
第3時	・文節で区切る方法で音読に取り組もうとすることができる。	・教師が音読する文を聞きながらその文を文節で区切る。 ・文節で区切った文を音読する。	ウ①（児童の発言）振り返りで、正確に読めたことを実感することができていたか。
第4時 （本時）	・文節で区切った文を正しく読むことができる。	・文節で区切った文を音読する。	ア②（行動観察）文節で区切った文を正しく読んでいるか。

5 本時

(1) 本時の目標 (4 / 4)

○文節で区切った文を正しく読むことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入	1. 挨拶をする。 2. 本時の流れを確認する。	・児童が見通しをもてるようにあらかじめ本時の流れを視覚的に示しておく。
	【形と空間を捉える】 3. 点つなぎを行う。 【読むことについて】 4. 平仮名で羅列された単語を区切る。 5. 教師の音読を聞きながら文に区切りを入れる。 6. 区切りを入れてある文を音読する。 7. 音読の振り返りをする。 【書くことについて】 8. 漢字を大きく書く。 【ローマ字入力の練習】 9.ローマ字しりとりを行う。	・本児は漢字を覚えることが苦手であるため、形と空間を捉える力を高めることをねらって、点つなぎに取り組みさせる。 ・声に出すと本児が区切れるようになるため、声に出しながら、区切ってよいこととする。 ・本児はワーキングメモリーが弱いいため、教師の音読を聞いて時間を空けず文に区切りを入れるようにする。 ・区切りがあった方が正しく読めるようになるため、文に区切りを入れて読んでいる。 ◎文節で区切った文を正しく読んでいるか。ア② (行動観察) ・「正しく読めていたか」という視点で振り返りを行い、本児の実感を確認する。 ・「とめ・はね・はらい」の位置や字の細部を視覚的に捉えられるように大きく書かせる。 ・「あ行」と「か行」以外は定着していないため、ローマ字表を児童が見える位置に置く。
まとめ	10. 活動を振り返る。	・活動の中で、できていた点を花丸で視覚的に評価する。